

「ありがとう」

校長 嶋見 靖之



道端にはコスモスの花が優しく揺れて咲いています。学校畑「しおかぜ野菜王国」では、サツマイモの収穫が始まります。「芸術の秋」、「読書の秋」…。何をするにも充実する季節です。

10月4日に恒例のマラソン大会を行いました。子どもたちは自分のめあてに向けてしっかり走り抜くことができました。沿道では地域の皆様の応援の声、ご家庭の皆様の運営支援をいただきました。ありがとうございました。

このような「スポーツの秋」にふさわしい話題が、9月9日にありました。陸上競技の男子100mで桐生祥秀選手が日本人初の9秒台をマークしたのです。苦難を乗り越えて目標である9秒台を達成した桐生選手の健闘に私達も励まされました。

この大記録達成の裏に、スターターを務めた福岡涉さんの努力があったそうです。陸上競技は、追い風2m以内でないと公式記録になりません。その日の競技会場は風が強かったそうです。福岡さんはその日の風のリズムを分析し、風が弱い時を見計らってスタートの合図をしました。結果、風は追い風1.8m。桐生選手の記録は公式記録となったのです。福岡さんは「日本で最初に9秒台を出させることができた」と喜んだそうです。桐生選手も福岡さんの気持ちに感謝したことでしょう。

誰かの頑張りの影には、誰かの支えがあります。支えられた人は支えた人に感謝し、感謝の気持ちをバネにまた頑張れます。支えた人は頑張っている姿を見て嬉しく思います。支えている人、支えられている人の間は「感謝」の気持ちでつながります。

感謝の気持ちは「ありがとう」という言葉で確かめ合えます。「ありがとう」の言葉をもった人は自分が良いことをしたことに気付くこともできます。

感謝された人は誰かの役に立てたという自己有用感をもち、感謝できた人は人の気持ちが分かる優しい心や人の役に立てる人への憧れをもつことができます。

家でのお手伝いも、「ありがとう」を子どもに伝えるきっかけをつくります。

子どもの頑張りを見付け、「ありがとう」を言葉で伝えていきたいものです。